



見沼小だより

平成29年度第9号

平成30年1月9日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」

新年あけましておめでとうございます

今年も子どもたちの健やかな成長を願い努力してまいります

皆様には今年もまた希望に満ちた年となりますよう

心からお祈りいたします



支えあう心

校長 大澤 淳

昨年末から新年にかけて、強い寒波に見舞われ、北の地方では記録的な降雪となりました。幸い埼玉の平野部は、いつもと変わらず、穏やかな年明けを迎えました。

また、新しい1年がスタートしました。各学年とも進級に向けて準備をする学期を迎えます。とりわけ6年生は、間もなく中学生としてスタートします。制服や学用品の準備だけではなく、中学生になる心構えや気持ちの準備をして、小学校最後の時間を、有意義に、そして楽しく過ごしてほしいと思います。

今年は成年ということで、年末にこのような記事がありました。「長く『ペットの王様』ともいわれてきた犬の飼育数が近年、大幅に減り、業界団体の調査で、ついに猫を下回った。」(埼玉新聞、12/26) というものです。記事によると、原因は少子高齢化の影響で、長寿になった犬を最後まで世話できるか不安で、新たな犬の飼育を断念する高齢者が増えたことや、散歩など猫よりも手間がかかるイメージが強いからなどと推測されていました。いずれにしてもペットを飼う人が増え、ペットが人々を癒し、心の「支え」になっているのも事実です。

犬や猫に限りませんが、子どもたちが何か生き物を飼うことは情操教育に良いとされています。生き物の世話を通していろいろなことを経験し、世界が広がります。毎日、餌をあげ、排せつ物を処理し掃除することは、生き物を飼う基本ですが、それは時には面倒で、決して楽しいだけではありません。ただ、飼い主である自分が「支え」なければ、生き物は生きていけないのだということを学びます。

他にも年末には、埼玉県の行田市を舞台にした老舗足袋業者の挑戦を描いたドラマが、話題となりました。地元行田市では、多くの人が協力し、応援していたようです。私も毎回楽しみにして観ていました。存続が危ぶまれる老舗業者と怪我に苦しむマラソン選手が、それぞれ弱い立場でありながら、苦しい時こそ「支え」合うというストーリーは、心地よく、また力強さを感じました。

ひるがえって、学校には、気持ちが強くない子や自分をうまく表現できない子、心が沈みがちの子がいます。日常の生活にも苦しさを感じる子がいます。そんな子どもたちの心をしっかりと支えていくのが学校の務めだと考えています。

私たち職員は、子どもたちみんながしっかりと支えあえるような環境づくりをしていかなければなりません。苦しんでいたり困っていたりしている人がいたら、自分から積極的に手を差し伸べられる子、そして、互いに支えあえる子の育成を目指します。

今年も引き続き、学校と家庭が協力して子どもたちを支援できればと考えております。皆様のご理解とご協力をぜひお願いいたします。